

浄広寺



本堂外観



本堂内陣

当寺の歴史を調べていますと、『埼玉県立文書館』所蔵の古文書の中に

「一昨日三日夜 中仙道浦和宿 赤堂 往古より安置 親鸞聖人直筆弥陀画像一軸 並びに守僧袈裟衣 その他紛失 古着等を扱っている所等で発見した者がいたら届け教えるように 天保九年（一八三八年）関東取締り（現在の警察）太田左五郎 同 内藤賢一郎」なる文章が残っていました。

又、近年の『埼玉宗教年鑑』には、「浄広寺は、もと方什寺という現宗の寺であったが、江戸中期から末期にかけて四度の火災にあったため衰微したが、先代住職が大正十年、あらためて布教所として開き、阿迦堂と名付けられた。その後、羽目板が赤いところから（赤堂）ともよばれたが、現住職の代になって現在の寺名を公称した。」とある。

いづれにしても、古くから寺として存在していたようであるが、昔のことははっきりしていません。確かなことは大正十年（一九二一年）通称「赤堂」の寺名で、岩槻に在ります浄源寺より来られました河津純正師が、布教所として開いたようであります。

その後、河津純正師の娘であります河津喜代子が、昭和十七年（一九四二年）より僧侶としてこの「赤堂」を引き継ぎ、昭和四十六年（一九七一年）六月に宗教法人「浄広寺」を設立し、現在に至っております。

現在、当寺の庭には誰も知る者がいない、江戸時代のものと思われる石碑等（圓心法師 寛政二年二月十八日 一基。 釋教恵法師 天保十一年 一基。 中山了暁法師 明治十二年六月十六日 一基。 赤堂合葬碑 明治三十五年 一基。 他）が在りますが、古くて読めないものも数基在ります。昭和時代にも数回の火災に遭い、全て灰となり古いものは何一つ残っており

ず、現住職の高齢（九十八歳）もあって昔の出来事は聞くこともできません。又、江戸時代から続いた当寺は、浦和駅周辺の再開発によって、平成二十二年三月に現在の場所に移転いたしました。



石碑